

## 第8回首都圏小児結核症例検討会（平成29年度）開催概要

|     |   |
|-----|---|
| 日時  | 平成29年11月18日（土曜日）14時～17時   |
| 内容  | 1 首都圏における小児結核症例の検討 3症例<br>2 講演 「千葉県における小児結核診療体制の確立に向けた取り組みについて」           |
| 参加者 | 小児科診療、結核診療等に従事する医療関係者（医師・看護師等）及び小児結核対策に携わる行政機関関係者（本庁および保健所の医師・保健師等） 約100名 |
| 会場  | 東京都庁第二本庁舎1階 二庁ホール（東京都新宿区西新宿2-8-1）   |

第8回首都圏小児結核症例検討会において、発表された症例は以下の通りです。

### 【検討症例 ①】

コッホ現象により発見された初感染結核の乳児

### 【検討症例 ②】

同居家族に加えて帰省先での接触から乳幼児を含む集団感染に至った肺結核事例

### 【検討症例 ③】

家族全員が外国籍の幼児結核事例

（尚、個人情報保護のため、検討症例についての配布資料はありません。）

### 講演「千葉県における小児結核診療体制の確立に向けた取り組みについて」

千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野准教授 石和田稔彦先生の講演内容について掲載します。

本検討会により明らかになった課題を踏まえ、今後の小児結核対策への取組として考えられるものは以下のとおりです。

### 【今後の小児結核対策に対して必要と考えられる取組】

- ① 小児の周囲にいる成人結核患者の早期発見・早期治療の支援
- ② 母親等保護者も結核治療中の場合の、小児結核患者の治療と生活全般の支援とそのための関係機関の連携体制の構築
- ③ 小児結核患者の付き添い等の医療提供体制の整備
- ④ 体重増加不良に着目した乳児健診時の発見体制の構築  
（体重増加不良だけからの結核発見は困難であるが、体重増加不良の原因が判明しているか・全身状態はどうか等の検索、チェックがなされているか。）
- ⑤ 接触者健診対象者が多数で、保健所のみで対応困難な場合の医療機関との協力体制の構築  
（小児のIGRA検査等）
- ⑥ 外国人小児結核患者に対する支援
- ⑦ 保健所と病院に加え、保育課等行政他部門との綿密な連携体制の構築
- ⑧ コッホ現象対応時のマニュアル・要点作り（接種部位の変化を画像で残しておく等）
- ⑨ 地域で小児結核が診られる医療環境整備
- ⑩ 小児が感染発病に至った原因についての研究（免疫不全の関与等）

### 今後の首都圏小児結核症例検討会について

東京都では小児結核に関する課題の解決のため、今後も国の研究班との共催で本検討会を継続していきたいと考えています。結核患者が減少している中で小児結核は更に症例が少なく、今後、医療機関や行政機関においても対応困難例が出ることも想定されます。首都圏における小児結核対策の一助とするためにも、首都圏の保健所及び医療機関の皆様からの症例提示について、ご協力頂けます様お願いいたします。